



第13号

発行
成相山成相寺
京都府宮津市字成相寺339
TEL0772-27-0018
<http://www.nariaiji.jp/>

自由と言ったこと

「地球温暖化」という言葉を二十数年前に初めて耳にしてから、今年ほどその言葉の恐ろしさを改めて体感した年もありませんでした。全国で最高気温の更新や竜巻、また次々と襲ってくる台風、「特別警報発令」。恥ずかしながら早朝五時に「命を守る行動をして下さい」と言われても何をどうして良いのやら、強い雨と風は九年前の二三号台風を思い起こさせ、唯々怖くておろおろと観音様に「助けて下さい」としか言えずにいました。

皆様のお住まいの地域は如何でしたでしょうか。被害をお受けになられました方々には心よりお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

二ニュースなどでご覧になった方も多くと存じますが、十八号台風で京都府の福知山では地域が丸ごと水に浸かり、甚大な被害となりましたが、近隣の方が助け合って炊き出しをされたが、遠くからもボランティアの方が集まり、皆さん汗と泥にまみれながら懸命に作業をされていました。

二ニュースで水害の映像を観て驚きました。その地域にはお世話になった御夫婦がお住まいなのです。何とか二階に避難してお二人共にこの無事なように、被害が少しでも少ないことを祈りながら水が引くの待ち、時間の許す限りお手伝いを

させていただきました。最初は御夫婦二人ばかり、次は三人、その次は五人、その次は八人十人とボランティアの方がお手伝いに駆けつけて下さったのです。いつもは気丈なご主人も惨状を目の当たりにして、「最初は僕ら二人でどうしようかと・・・。仏壇に向かい、何で僕たちにこんな仕打ちをするのかと文句を言ったんだ。」と。

「昨晚、仏壇の前で先日文句を言ったのをあやまつたんだ。親戚でも兄弟でもない方がこんなに大勢来て下さって、その上に一生懸命手伝って頂いて、有り難うございまして。きつと、仏さんが皆さんを連れて来てくれたんだ。これでこれからも頑張れる。本当にありがとう。」と。たつた一人から段々と人手も増え、こうした一人一人の力と助け合い支え合う事が、どれだけ大きな力になるのかと私も改めて教えられました。

それにしてはご主人が仏壇に思わず言つてしまつた気持ち、痛いほど解りますが、私も二三号台風のときに感じたのですが、辛いとき、少々の力ではどうにもならないと思つたとき、とても寂しく感じられてしまふのです。世間からかも忘れられていいるのではないだろうか。恐ろしいほどの孤独感に襲われ、そしてこのまま朽ちていくのではないだろうか。と・・・。思わず「私達が何をしたのだ。何の為に試練なのか。」と叫びたくなつたものでした。そして、励ましやお見舞いに来て下さる方のお顔を見るだけでも

とても嬉しく疲労しきつた身体に新たな力が湧いてくるのを感じたものでした。心を寄せられる人がいるだけで、どれだけ心強い事なのか。十年近くたった今でも、あの時の励ましの言葉やお顔を忘れ、これはありません。

大災害が続く日本ですが、皆が心寄せ合い、一歩一歩力を合わせ復興に向け歩いて行きますよ。

先日、テレビで北野武さんが「学校の校則はもっと厳しくした方がよい、作法を身につけることを学んで礼儀を覚えた方がよい。子供には自由と言つても逆のことだから理解できない。子供は何かに遊らぬが、周囲から認めたがられる自由になると破る校則もなくなつて、次は凄いとされるために人を傷つけるようなことをしてしまうのです。本末転倒だ。自由とはそういう物ではない。」と言つたことを話しておられました。

私はその言葉を聞いて、「哲真僧正と同じ事を考えてらっしゃる。」と咄嗟に思いました。祖父の哲真は何時も「二而不(へんにふに)」と言ふ言葉を使つておりました。「自由と義務は二而不二である。二つは背中合わせでどちらが欠けても成り立たない。車の両輪の如くあつてこそ、それが本当の自由である。」と。

「義務を負うとは、大人は法律を守る。色々ありますがそれを果たしてこそ自由という権利を得ることが出来る。子供は義務教育を受ける。勉強して社会の一員

である。ことを自覚するのだ。」と教わりました。高野山での修行の頃を思い出します。厳しいほんとは厳しかつた修行をやり遂げた後の何とも言えない気持ち。心が羽ばたいて行く様な気持ちと共に、将来への今までになつた責任感との同居。あれが自分で勝ち取つた最初の自由というものだったと思います。厳しく指導頂いた沢山の方に育てて頂いたお陰で、今の自分が有りそうやって自由とお陰分も味わたのだと感謝しています。

子供というのは大人に逆らつて自分を主張して認めてもらいたがる物です。でも子供故に方法を間違えるときがあります。何かを自分でやり遂げる事無く、目的も無いままに只の我が儘になつてしまふ時があります。その時は大人がしっかり叱つて教えてやらないと、勘違いのままの大人に育つてしまふのです。義務も権利もはき違えて、人に責任を押しつけて自分は正しいのだ、自由にして何が悪いと、言い張るような大人になりかねません。

「自由」とは誠に美しく貴いものです。真の自由を無くさないために自分たちの足下をしっかり見つめて生きて行きたいものです。

祖父の言葉を思い出して改めて色んな事に感謝し、今、自分は誰かを支え、導いていけるようになったのかと、まだまだ自問の毎日です。

今年は今、十一月に西国三十三観音霊場の出開帳が行われます。前回は仙台でした。今回は福岡の天神で三日間にわたる方々はぜひ、お出かけ下さいませ。私も職員達と一緒に出張致しますので、お待ちしております。

南無観世音菩薩

山主 弘眞

山内順礼 第十一回 南無仏太子像

檜材の寄木造り、玉顔を嵌入(かんにゅう)する二歳像で、両部に目鼻をいっぱい配した表情は、幼児より少年の相貌を思わせる。表情や緋色の袴の衣褶線は、鎌倉時代の南都仏師の作風に近い。



南無仏太子像 (鎌倉時代 十四世紀)

この仏像は聖徳太子の子供の時の姿を現した仏像で、成相寺や丹後地方とも母親の深い聖徳太子の幼き日の姿を思い起こさせます。

太子の母親の間人皇后(はしうどこうごう)は中央での政変から親子共、身を守るために丹後の地に逃れて現在の間人(たいざ)という所に隠れ住んだと言われております。そして都に戻る折にその土地に「はしうど」という名を贈ったところ地元の人々が恐れ多いとして、都より退座の折に住まいなされた場所として「はしうど」を「たいざ」と呼ぶように成ったと言う事だそうです。この一行が都への道中に通ったとされるのがこの成相寺の山で、その折に道中折願として祀られた観音像が成相寺の起源であると言う説もあります。

「和をもって」というのもこの聖徳太子の御言葉より頂いております。

御縁

つながり

丹後国府と中世都市「府中」
 ～雪舟の描いた景展～

平成25年
10月12日(土)～11月24日(日)

丹後国府と中世都市「府中」の歴史をたどる。雪舟の描いた景展。雪舟の描いた景展。雪舟の描いた景展。

丹後国府と中世都市「府中」
 ～観音の姿の伝説～

丹後国府と中世都市「府中」の歴史をたどる。観音の姿の伝説。観音の姿の伝説。観音の姿の伝説。

今秋、丹後郷土資料館におきまして「丹後王国建国一三〇〇年」として丹後地域の寺社仏閣の宝物が一般公開されます。成相寺は「参詣曼荼羅」の展示をお願い致しております。

歴史の上で「丹後」という言葉が初めて出て参りましたが、今から一三〇〇年前の七一年、奈良時代のことでして、それまでの「丹波国」より現在の京都府北部地域を囲わけて「丹後国」として国府や国分寺が置かれるようになりまして、それ以前にも丹後地方は大陸との交流の玄関口として独自の発展を遂げて参りました土地です。

秋の紅葉のシーズン、お出かけの折にはぜひ足を延ばしてこの古代歴史の魅力に触れてみてくださいませ。